



男女共同さんかく通信⑦ …男女共同参画は毎日の生活にかかわる身近なことです…

みんなで考えよう男女共同参画

男女共同参画社会の実現は、21世紀の我が国社会を決定する最重要課題に位置付けられています。しかし、「男女共同参画」は難しい、自分には関係ないと思われがちです。

そこで、市では、男女共同参画について、理解を深め、自分なりに気づき、行動することを目的に、中央公民館で男女共同参画社会推進講座「女と男いきいきセミナー」を開催しました。参加者は、セミナーをとおり、毎日の生活を振り返る機会となったようです。

●セミナーの主な内容●

第1回目 6月25日

「女と男が支えあう社会づくり—十人十色の社会を目指して」と題し、NPO法人青森県男女共同参画研究所理事の蛭名桂子さん（七戸町）が講師を務めました。

蛭名さんは、「社会習慣に基づく男らしさ、女らしさなど固定的な役割分担意識から脱却し、自分らしく生きよう」と呼びかけました。

第2回目 7月2日

「仕事と家庭を両立できる？—ワーク・ライフ・バランスの実践」と題し、青森県男女共同参画アドバイザーの工藤緑さん（弘前市）が講師を務めました。

工藤さんは、共働き家庭が増加しているため、男性の家事や育児参加の必要性について話すとともに、「仕事、地域活動、研修など自分の好きな分野に新たな一步を踏み出してほしい」とアドバイスしてくれました。

第3回目 7月5日

「風邪を引いたら婦人科へ—あなたの健康管理は大丈夫？」と題し、一松堂医院五代院長の種市良意先生（八戸市）が講師を務めました。

種市先生は、「診療科目で理解されていないのが婦人科。女性は成長するにしたがって、身体が変化するもの。その変化を理解しないで病院へ行っても、的確な診療が受けられません」などと生涯にわたる健康管理の必要性について話してくれました。

第4回目 7月9日

「レッツ・トライ！あなたの可能性を信じて」と題し、青森県男女共同参画アドバイザーの蒔苗正子さん（青森市）が講師を務めました。

蒔苗さんは、自分の生い立ちや、子育ての経験をもとに、「活動はとにかく楽しくなければ続かない。周りに誘われても長続きしないもの。得意なことを深く追求し、自分の可能性にチャレンジしてほしい」とエールを送りました。



「男女共同参画」って
難しいもの？

●セミナー参加者の声●

- 30代) 企業の管理職や社長、高齢の男性に聞いてほしいと思いました。
- 30代) まずは夫の考え方を換えられるようにしていきたいです。
- 40代) 男女共同参画という言葉を知りました。女性の社会進出ということかと考えましたが、まったく違い、生きていく上で、とてもためになる考え方だと思います。
- 40代) 自分のことだけでなく、家族や子どもにも影響があるなど、とても参考になりました。家庭でも話し合ってみたいと思います。
- 40代) 家庭、仕事上で男女差を感じていました。参考にしたいと思います。
- 40代) 自分や家族を見つめるいい機会になりました。
- 40代) 少しずつでも夫の意識を変えたいと思います。
- 60代) 普段心に留めながらも聞き流していたことを再確認した感じでした。
- 60代) わたしたちの娘や孫の世代に根付かせていきたいと思いました。

男女共同社会ってどんな社会？

人… 人権と個性が尊重されています。一人ひとりの多様な生き方が尊重されています。自立し、支えあって生活しています。

家庭では… 女性も男性も子育てや介護、家事などに協力し、喜びも責任もわかちあっています。それぞれのライフサイクルに応じた健康管理への配慮がされています。

職場では… 男女の格差がなくなり、個性や能力、意欲などが

十分に発揮できています。家庭や個人の生活とバランスのとれた勤務体制で女性も男性もゆとりと充実感を持って働き続けています。

地域社会では… 固定的な性別役割分担意識に基づく社会通念や慣習が見直されています。女性も男性も企画や方針決定の場に参画し、魅力あふれるまちづくりに貢献しています。

問い合わせ先 総務課広報男女参画係 (☎③5111内線155)